

第8回戦術委員会確認事項

2014年4月23日

全日本金属産業労働組合協議会
(金属労協/JCM)

金属労協は、本日10時より第8回戦術委員会を開催し、現時点までに引き出した回答を集約するとともに、JC共闘の今後の進め方を確認した。

1. 中堅・中小登録組合は、要求を提出した161組合のうち、159組合が回答を引き出し、155組合が賃金構造維持分を確保した。月例賃金の引き上げを要求した152組合のうち、獲得した組合は128組合(回答引き出し組合の80.5%)となり、平均引き上げ額は1,272円となった。

一時金は、128組合が回答を引き出した。前年と比較できる113組合のうち、85組合(75.2%)が昨年実績を上回り、平均月数は4.78カ月となった。

2. 金属労協全体では、3,271組合のうち、2,767組合が要求を提出し、1,894組合が回答を引き出している。

回答を引き出した組合のうち、1,646組合(86.9%)が賃金構造維持分を確保した。月例賃金の引き上げを要求した2,236組合(80.8%)のうち、獲得した組合は1,151組合(60.8%)となり、昨年同時期の226組合を大幅に上回った。月例賃金を引き上げた組合の平均引き上げ額は、1,332円となっている。

一時金は、1,320組合が回答を引き出した。前年と比較できる1,269組合のうち、906組合(71.4%)が前年実績を上回った。平均獲得月数は4.47カ月となり、昨年同時期の4.29カ月上回っている。

3. われわれは、これまでに引き出した月例賃金引き上げ、企業内最低賃金協定の締結拡大と水準引き上げ、一時金水準改善の流れを、今後回答を引き出す組合に波及させ、金属産業全体の底上げを図ることとする。各組合は、産別指導の下、精力的に交渉を展開し、速やかに決着を図ることとする。

4. 第9回戦術委員会は、5月22日(木)10時より開催する。

以上